

# 70年代ポーランド映画の展

当フィルムセンターでは、さきに「ポーランド映画の回顧」と題して、1916年から1966年に至るポーランド映画の主要作品23本の連続上映を図り、映画史上に果たした同国映画の精華をひろく紹介いたしました。その後わが国には〈ポーランド派〉の作品数本が公開されたに止まり、新しいポーランド映画の姿に接する機会がないまま今日に至りました。

今回の催しは、前回の企画を受け、ポーランド大使館・ポーランドフィルムの御

協力を得て、本邦未公開の1970年代製作になる同国長編劇映画ならびに短編アニメーション映画を紹介上映するもので、いずれも同国の代表的映画作家の手になる秀作ぞろいであります。ポーランド映画に関心を持たれる方々はもとより、ひろく映画研究者・愛好家の各位におかれても、この機をお見逃しなく御鑑賞下さるようおすすめいたします。

フィルムセンター

日曜・祝日休館 午後3時・6時15分開映（開館は12時30分）。但し、「大洪水」「約束の上地」上映日のみ1時30分、5時30分開映 一般200円・学生140円・小人100円  
\* 先着順にて定員（239名）に達し次第、入場を締め切ります。

(注) 上映作品は、いずれも英語字幕つきです。

期	日	題	名	製作年	監督	備	考
9月1日(木)	9月9日(木)	{	コン・アモーレ (カラー・99分)	1976年	J.バートルイ	3年ごとにワルシャワで開かれるショパン・コンクールを背景にした若いふたりの純愛物語。	
			射的場 (カラー・6分)	1975年	M.ホールレック		
9月2日(木)	9月10日(金)	{	四半期の決算 (カラー・99分)	1974年	K.ザヌッシイ	10年1日のように家庭と職場を往復するのに疲れた女性。そこへ新しい生活のチャンスが。揺れ動くその心理を細やかなタッチで描く。	
			サーカス (カラー・9分)	1968年	Z.クドゥワ		
9月3日(金)	9月13日(月)	{	罪の物語 (カラー・136分)	1975年	W.ボロフチック	ひとりの娘の転落の生涯を描きながら、20世紀初頭のポーランド社会の断面を鋭く切りとって見せた秀作。画面の美しさは抜群。	
			やどりぎ (カラー・9分)	1975年	P.シュバコーヴィッチ		
9月4日(土)	——	{	大洪水 (カラー・168分)	1974年	J.ホフマン	17世紀のポーランド、スウェーデン軍の怒濤の侵略に立ち向う若い騎士の波瀾万丈の活躍とロマンス。シェンキウィッチ原作の超スペクタクル大作。	
			燃える指 (カラー・7分)	1975年	D.シチェフーラ		
9月6日(月)	9月11日(土)	{	約束の土地 (カラー・160分)	1974年	A.ワイグ	ポーランドのランカスターといわれた19世紀末の工業都市、あらゆる人間の欲望が渦巻いているその町ウーチを舞台に、3人の青年の夢と野心の挫折を描く。	
			火事 (カラー・8分)	1975年	W.ギェルシュ		
9月7日(火)	9月14日(火)	{	影なす境 (カラー・110分)	1976年	A.ワイグ	ジョゼフ・コンラッドの海洋小説の映画化。苛酷な自然と人間の戦い。	
			ポーレックとローレックの水中散歩(カラー・10分)	1974年	S.ドゥールス		
9月8日(水)	——	{	判決 (カラー・91分)	1976年	A.トゥショスーラスタヴィエツキ	安楽死の問題を真向うからとりあげて追求したシリアスな作品。	
			ミモザ (カラー・9分)	1973年	P.シュバコーヴィッチ		

東京国立近代美術館フィルムセンター 中央区京橋3-11 ☎(561)0823 地下鉄：京橋、宝町駅下車

※竹橋本館 8月21日～9月23日まで 「シャガール展」